所属・職・氏名	岩手大学農学部 農林環境科学科 森林科学 教授・石井 正典
シーズ名	維持管理不要な溪流魚道構造の開発
シーズの概要	<p>河川・溪流の流れを遮断する横断的構造物（堰、ダム、ほか）が出来ると、魚等の水生生物はその構造物を遡上出来なくなるが、その障害物を補完する方法として、当該構造物に対して魚道本体を設ける方法がある。</p> <p>魚道本体の設置当初は魚道機能も良好であるが、年数が経過するにつれて魚道機能は劣化し、以前のように魚道本体を魚が遡上することが困難となる。魚道機能劣化の原因は、魚道本体に対する土砂や流木等の流入・堆積である。</p> <p>劣化した魚道本体を機能回復させる方法として、魚道本体から土砂等の排除（維持管理が必要な魚道）が考えられるが、土砂等の排除には多大な労力と経費が必要となる。</p> <p>しかし、現実問題として維持管理費を計上しているのは稀で、大多数の魚道本体ではそれを計上していないのが実態である。</p> <p>従って、これまでの魚道本体では河川・溪流の環境保全としての効果は低いものであった。</p> <p>そこで、魚道本体への土砂・流木等の堆積・流入を防止し、魚道本体へは常時、流水のみが流れる構造のあり方を考案（「IM式魚道」と言う。）し、平成10年から東北・北海道地方の魚道本体の周辺施設としてIM式魚道を追加し、その有用性の検討を行なった。</p> <p>平成12年に至って、IM式魚道が維持管理不要な魚道であることの実証が得られた。</p> <p>IM式魚道は、平成16年度までに北海道の治山事業の魚道本体、青森県の治山・砂防事業の魚道本体、岩手県の治山・砂防事業の魚道本体、秋田県の治山事業の魚道本体の周辺施設として採用されている。</p> <p>さらに、平成16年度では、上記の道県に加えて宮城・山形・福島県の治山・砂防事業の魚道本体の周辺施設にも採用されるように指導・調査を行なっている。</p>
その他参考資料	
共同研究機関・企業	なし
特許(出願)番号	特開 2002-184581